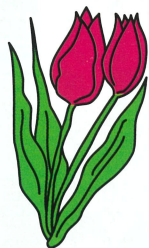


足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

あだち

第74号

令和5年2月22日

編集発行

足立区青少年委員会
広報部

足立区教育委員会
青少年課



<http://adachi-seishounen.jp>

動きはじめた青少年委員会活動

午前の部従事



会場誘導



午後の部従事



着付け直し



入場口検温



今年度も「二十歳の集い」入退場時の規制を行い、会場内外で新型コロナウイルス感染症対策が講じられました。



前へ

足立区青少年委員会会長

多島 三好

初春のお慶びを申し上げます。

1月9日の「二十歳の集い」では、青少年委員会が東京武道館にて午前・午後と入場口検温消毒、会場内誘導、着付け直し等の運営に協力をいたしました。無事に終わることができ、ご協力いただいた委員の皆さまありがとうございました。

式典当日、会場内で後ろから「会長！」と声を掛けてくれた参加者がおり、最初はわからなかったのですが、町会の子ども会に参加していた子供で、新調した背広を着て笑顔で照れくさそうにしていました。月日が経つのは早いもので子供たちはあつという間に巣立っていくのですね。彼等の輝かしい未来を心より願っております。

また昨年は青少年委員会各ブロックでの教育懇談会が実施されました。参加いただいた各校の校長先生、PTA、開かれた学校づくり協議会の方々からそれぞれの取り組み等の話があり、その中で青少年委員も活躍していることがわかりました。

まだまだコロナウイルスが収束されない中、活動の制限にできる限り対応をしているところですが、令和5年度には皆さまのご支援をいただきながら足立区青少年委員制度70周年記念事業を進めてまいります。

引き続きご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

「地域教育講演会」に参加して 第10ブロック 吉田 弓子

11月11日、竹の塚センターにて竹の塚地区対と青少年委員会第10ブロックは共催で「地域教育講演会」を開催しました。講師に大山日出夫教育長をお招きし「足立区の教育の現状と目指すところ」をテーマにご講演いただきました。10ブロックの校長先生方をはじめ、PTAや地域、町会など子供たちに関わる方々が出席され、熱心に耳を傾けていました。

私は担当校である保木間小学校で放課後子ども教室のスタッフをしているため、宿題をしている低学年の子供たちの様子をみる機会があります。家庭学習には「自らめあてを決め、めあてに向けて学習し、めあてを達成する」という学力向上のための対策がとられていることが今回の講演を聞くことでよくわかりました。保木間小では、めあてを決めて学習した時間数によって校長先生から名前を発表してもらえ、賞があり、低学年の子供たちはこのご褒美が嬉しいようで、各学年の目標とする時間以上に学習している子供もいます。

「自ら様々な情報を理解し、考え、調べ、協働して課題に対処していくための学力」がこれから子供たちがたくましく生きていくために必要な学力であることをお聞きし、今後も学習に取

り組む子供たちを温かく見守り、励ましていきたいと思う講演会でした。

「優良PTA文部科学大臣表彰」受賞 第6ブロック 三枝 孝次

大谷田小学校で今年度は青少年委員とPTA会長を兼任し活動をしており
ます。

11月18日、日本PTA全国協議会の年次表彰式が行われ、大谷田小PTAが令和4年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。同表彰は、PTAの健全育成と発展の助けになることを目的に、全国でPTA組織・運営や活動について優秀な実績を上げた団体を、文部科学大臣が表彰するものです。



今回表彰を
東京都内で受賞
したのは、都内小学校約1300校
のうち3校だけで、足立区からは
大谷田小PTAが唯一受賞。さらに、
東京都受賞校の代表として大谷田小
PTAが登壇、文部科学省から表彰
状をいただきました。

大谷田小は「パッと（P）楽しく（T）
明るい（A）PTA」をスローガンに
活動。コロナ禍でも工夫しながら出
来る範囲で「6年親子レクリエーショ
ン」、「環境浄化活動」、「親子卓球教室」、
「令和企画コンクール」等の新たな
取り組みや活動を行ったこと、PTA活

動を継続的・積極的に発信したこと等
が評価され受賞となりました。今後も
学区域で工夫しながら、状況に応じた
活動、地域と連携した活動が行えるよ
う青少年委員として支援していきたい
と考えています。

北鹿浜小学校創立50周年 第12ブロック 渡邊 淳子

11月12日、北鹿浜小学校に於いて創
立50周年記念事業式典が行われました。
コロナ禍の中ということで、式典のみ
となりましたが、近藤やよい区長をは
じめ総勢172名の関係者の皆さま方
にご参列いただきました。

式典の始めに5・6年生によるお祝
いの歌、最後に「UnRealProject（ア
ンリアルプロジェクト）」によるミニ
コンサートが行われました。

北鹿浜小学校は、鹿浜小学校の分

校として設立され、昭和48年4月に
開校し、これまでに
4401名の卒業生
を送り出してまいり
ました。しかし、令
和5年4月より、鹿
浜西小学校との統合
により「鹿浜未来小
学校」となり、今年度の卒業生34名を
もって閉校となります。



現在、旧鹿浜中学校跡地に新校が建設
され、間もなく完成となります。

長きにわたり地域の皆さまとともに
愛され育んできた学校が無くなること
に一抹の寂しさはございますが、新校
としての門出を祝すとともに、未来
を担う子供たちに「未来小」の未来を
託したいと思えます。今後もより一層、
学校・地域が発展していくことを心よ
り願っております。

令和4年度 区立小・中学校周年記念式典 実施校一覧

実施日	学校名	周年数
10月22日	西新井第一小学校	70周年
10月29日	栗原小学校	80周年
11月5日	綾瀬小学校	60周年
	青井中学校	50周年
11月6日	第四中学校（夜間）	70周年
11月12日	関原小学校	90周年
	北鹿浜小学校	50周年
11月19日	中川小学校	60周年
11月26日	西伊興小学校	50周年
	花保小学校	50周年
12月3日	弥生小学校	70周年
	青井小学校	50周年
12月17日	足立小学校	10周年

二十歳の集い



東京武道館：令和5年1月9日(月・祝)

対象者：6,224人

参加者：午前の部 1,564人
 午後の部 1,360人

実行委員氏名

相川 未結	清水進乃介
青木 なつ	末信 優成
生駒 翔	高崎漱一郎
石井 陽	田口 瞳
石黒 那奈	中内 健太
勝田 結	股部 七海
金杉 詩音	宮崎 裕貴
神山 心	山崎 眞成
北川 楓	山本 茉莉

(敬称略)



実行委員あいさつ

神山 心

令和5年1月9日、名称変更後初となる「二十歳の集い」が開催されました。青少年課の皆さまをはじめ、実行委員と共に企画してきた式典を無事行うことができ、二十歳という大人への第一歩を踏み出しました。

今年度の式典テーマは「笑みこぼれ ここから始まる My color」です。友人との再会や出会いから、様々な思いにあふれ、笑顔がこぼれるような式典にしたい。二十歳を節目として、ここ（足立区や集い）から世の中に飛び出していき、新成人6224人のこれまで培ってきた個性の色を發揮した豊かな人になり活躍したいという想いを込めました。

また第二部では普段聴く機会があまりなくお祝いの場に相応しいとして、足立シテイオーケストラにお越しいただき、大迫力な演奏をしていただきました。昨年度と同様に、午後の二部制で開催し、オンライン配信も行いました。これまで足立区で過ごしてきた私たちはこれからも、立派な大人の一員となり社会のお手本となるような人になれるように精進いたします。

二十歳を迎えた皆さまへ

青少年委員会副会長 原田 勉

令和4年度に二十歳を迎えられた足立区6224名の皆さま、新たな門出を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

令和4年4月1日から、成年年齢が十八歳に引き下げられたことにより、今年『成人の日の集い』から『二十歳の集い』へ名称が改められ、令和5年1月9日、東京武道館を会場として、午前と午後の二部制で式典が開催されました。

午前・午後とも、会場は艶やかな振袖姿と紋付袴やスーツ姿の新成人で埋め尽くされ、将来への希望に満ち溢れた若さと元気のある若者たちには、足立区の将来に末頼もしさを感じさせられました。遠い昔ではありますが、私の二十歳の頃を思い返せば、バブル景気の真っ只中にあり、就職先や将来の生活に何ら不安を感じず、全てがバラ色に染まって見えた時代でありました。景気後退・コロナ禍における今の二十歳の若者たちは、将来をどう感じ、どう考えているのだろうかとうと会場の新成人に問いかけてみたところ、「自分の将来は自分自身の力で創り、足立区の役に立てる人になりたい」との回答がありました。足立区の将来に大きな期待が持てると感じさせられた式典でありました。

日帰り研修会

第1ブロック 稲垣 まゆみ

11月20日、3年ぶりの日帰り研修が行われました。

午前中に国会議事堂にて、議場を

衛視の方より、興味深い歴史の解説をうけながら、普段なかなか見ることの出来ない偉人たちの銅像がたちならぶ中央広間や、皇族方の控室として使用される御休所などを見学しました。



午後には今回の研修のメインとなるそなエリア東京で「東京直下72hツアー」に参加しました。地震発生後の3日間を生き抜くためにタブレットを一人一台使用してのクイズ形式で体験型学習をしてきました。

デパートのエレベーターにて震度7の地震発生という設定でエレベーターを降りると、震災直後の街並みをリアルに再現した巨大なセットの中での学習でした。

崩れ落ちた家々や火の手があがったお店など不安な気持ちでの貴重な体験となりました。

久しぶりの研修会はあらためて実際に足を運ぶことにより、防災の意識を再確認し、大事さを感じた一日となりました。



第9ブロック 中里 史朗

雲行き怪しく雨の降りそうなあいにくの天気でしたが、3年ぶりのバス研修ということもあり、約半数の委員が参加しました。

2台のバスに分乗して、国会議事堂に向かい、衆議院を衛視の案内の下視察しました。小学生の時に見学して感動した思いとはまったく違った感慨深いものでした。贅を尽くした内装、設備、彫刻等「国の唯一の立法機関」としての威信を感じました。大人の議事堂見学は、政治に選挙に関心がない人にも自分自身が感じたように意識が変わるのではないかと思います。

午後は有明にある防災体験学習施設「そなエリア東京」を視察体験しました。

「東京だからこそ、このような施設があるんだ」という驚きと同時にいつ起こるか分からない災害に対し、気持ち引き締まりました。施設では、タブレットを使つての「地震発生72時間の生存力をつける体験学習ツアー」などができる防災体験ゾーンと映像ホールがある防災学習ゾーンがあり、日常ではあまり体験できないことばかりで、より一層の防災意識が高まりました。ぜひ子供会・地少協などでも共有したいと思いました。

今回の研修は自身にとってとても有意義なものとなりました。

事業部長 渡邊 淳子

事業部の活動

2019年を最後に中止となっている青少年健全育成団体親睦ソフトボール大会に向けて、昨年12月に青少年委員会ソフトボールの活動が始動しました。荒川河川敷の千住新橋野球場に12名のメンバーが集まり練習を開始。冒頭に、嶋田新キャプテンが、大会連覇そしてソフトボールでの優勝を宣言しました。メンバー登録済の方は勿論のこと、追加での参加メンバーも含めて、来年度の本大会まで継続的に練習会を開催していきます。



研修部長 高橋 将郎

研修部の活動

社会活動が再開し始め、ようやく研修部でも、『日帰り研修』を実現することができました。様々な壁が立ちはだかり、研修するにあたり通常よりも準備や対応に苦戦しましたが、国会議事堂・そなエリア東京にて参加者54名バス2台での研修を皆様のご協力の下、無事終えることができました。ありがとうございました。

今後、全体研修・周年へ向けての活動を研修部一丸となり取り組んでまいります。



編集後記

広報部副部長 佐藤 健一

新型コロナウイルス感染症と3年以上向き合ってきましたが、毎日どう行動すれば良いか、まだ試行錯誤を繰り返しています。マスクを身に付ける事が、日常風景の一部と化してしまつた今日、このようにコロナ禍が長期化する中での子供たちの成長と教育環境が危惧されます。

こんな時に青少年委員として何ができるのか、という議論をいつも重ねてきましたが、感染リスクの不安要素が邪魔をして、中止や延期、あるいは規模の縮小という選択を余儀なくされ、どうしても積極的に活動できなかったのも事実です。子供たちを引率して出かけても、会話はできるだけ控えて、食事の時間も黙食という原則を遵守するよう指導せざるを得ない。行事を開催しても、なかなか思う存分楽しませる事ができませんでした。

しかし、これからコロナと共存していく道を選択する以上、きちんと医学的・科学的な裏付けをもとに、子供たちが必要以上に恐怖心を抱かぬよう、正しく恐れる姿勢を身に付けるよう見守っていきたいと思います。コロナとの共生・共存が実現できれば、青少年委員会も子供たちの笑顔のお手伝いができるに違いありません。

私たち広報部は、来年度も様々な方面にアンテナを張って情報を収集し、多くの方々に知っていただきたいピックスをお届けできるように、取材に全力で取り組んでいきたいと考えています。どんな些細な事でも結構ですので、103名の青少年委員の今を教えてください。広報紙やホームページを通じて、いきいきとしたメッセージを広く発信していきます。